

令和5年度 第1回守山市市民参加と協働のまちづくり推進会議

1 日 時 令和5年7月18日（火曜日）午後6時30分から午後9時まで

2 場 所 守山市民交流センター サロンルーム

3 出席者

(1) 委員

No.	委員区分	団体名等	氏名	備考
1	1号委員	市民（自治会）	石田 俊治	
2	1号委員	守山商工会議所	田中 良信	
3	1号委員	市民（市民活動）	中井 智美	
4	1号委員	市民（市民活動）	金崎 いよ子	
5	1号委員	市民（民生委員）	小西 由美子	
6	1号委員	市民（社会教育、青年活動）	金山 里美	
7	1号委員	市民（市民活動）	佐子 友彦	
8	2号委員	龍谷大学政策学部教授	只友 景士（委員長）	座長
9	2号委員	特定NPO法人 まちづくりスポット大津 理事	遠藤 恵子（副委員長）	
10	3号委員	市民（公募）	宇野 卓也	
11	3号委員	市民（公募）	清水 真由美	

(2) 事務局：嶋本環境生活部理事、林環境生活部次長、
高田市民協働課長、西村市民協働課参事、村井市民協働課主任

4 会議録要旨

発言者	会議内容（要旨）
	<p>委員委嘱および各委員のご紹介</p> <p>守山市市民参加と協働のまちづくり推進会議について：条例等による説明</p> <p>委員長の選任（事務局一任の声があり、事務局案として只友委員を推薦）</p> <p>副委員長の指名（只友委員長より遠藤委員を指名）</p> <p><u>議事(1)令和4年度市民参加と協働のまちづくり推進にかかる取組結果について</u></p>

事務局	～資料を用いて議事(1)について説明～
宇野委員	2月4日開催のもりやま未来ミーティングの参加者が多かった理由は何か？また、活発な意見交換がなされたのか。
事務局	<p>手法は他の市民懇談会等と同様であるが、要因として考えられるのは市議会と共催で実施したことである。市民にとっても市議会議員と話す機会はなかなかないので、これを機会に一度話してみようと思われた方が多かったのではないか。</p> <p>どのグループも熱心にご議論いただき、市議会議員の皆様方も参加者と率直な意見交換をしていただき、両者ともに心地よい時間を過ごしていただけたと考えている。今年度は具体的な予定は特にはないが、市議会からお話や提案があれば積極的に取り組みたい。</p>
只友委員長	議会の構成が変わり、議会改革・広報広聴特別委員会は独立した委員会になったと聞いている。滋賀県市議会議長会のテーマとして市民広聴について研究されたが、その中心となっていたのが守山市議会であったことから、昨年度はそのような取組をされた。年に1回やってもいいかという話もあったが、今年度の予定については、一度、議会事務局に確認してみるといいかもしれない。
石田委員	市民懇談会など、多くの事業に取り組んでいることは評価できる。市民懇談会やもりやま未来ミーティングで多くの提案があったことかと思うが、その後、市として具体的にどのような対応をされているのか。
事務局	市民懇談会は各種条例や計画の策定段階で実施するものであり、できあがった条例や計画に意見が反映されていると考えている。一方で、もりやま未来ミーティングは、若年層に市民参画やまちづくりへのきっかけを提供するものとなっている。
石田委員	無作為抽出で2,000名に案内を送付し、参加者が20名程度。まちづくりへのきっかけづくりとして、参加することに意義があるとのこと。その目的からも参加される人数が多いことが好ましいと思うが、どのようにお考えか。
事務局	<p>近年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、会して話すこと自体が敬遠されていた。昨年もコロナ流行期と開催日が重なり、参加人数が伸び悩んだこともある。</p> <p>多くの方に参加いただくには、テーマの設定も大切であると考えている。テーマや同封するチラシを工夫し、より多くの方が参加しやすい市</p>

	<p>民懇談会にしていきたい。</p>
石田委員	<p>参加者の意見はどうか。</p>
事務局	<p>終了時のアンケートでは、“楽しかった”、“市の事業がわかって、ためになった”などの好意的な意見をたくさんいただいている。また、参加したいかとの設問に対しても多くの方が“はい”と回答され、実際に毎回、数名の方がご参加いただいている。</p>
石田委員	<p>今後もより多くの皆さんが参加する工夫をしてほしい。</p>
只友委員長	<p>参加者を増やす方法は、謝礼を支払うこと。そうすれば、案内に対する返答率（参加率）はグッと上がる。市民懇談会のモデルはドイツで行われている市民討議会であるが、それを青年会議所が真似たのが始まり。かつて、守山青年会議所が市民懇談会を開催した際、謝礼を 3,000 円から 5,000 円に増やしたら定員を超過したということであった。</p> <p>その時間に仕事やアルバイトに行っていたら、給料がもらえると考えると、謝礼の支払い方は重要であり、ドイツでは休業補償も含めて謝礼を支払っている。自分たちが住むまちのことを議論することに対して謝礼を受け取ることが潔く思わない人も一定数いるが、それは滋賀の県民性もあるかもしれない。</p> <p>提言書を策定してから 10 年近くが経過した。その間に市民懇談会を実施してきたが、参加者を増やす方法を再度検討するためにも、今般、新た就任された委員の皆さんに提言書を共有することもよいかもしれない。東京都三鷹市は謝礼と併せて、ジブリの森の入場券を渡していることもあり、参加率は 5 % 近くある。</p> <p>市民が話し合ったことを尊重しながら、政策を作ったことが見えるようにするとより良いだろう。</p>
佐子委員	<p>私もコロナ禍での会議等は Zoom を活用してリモートで実施しているが、市民懇談会におけるリモートの活用状況は？</p>
事務局	<p>令和 3 年度に一度、各部屋を Zoom でつなぐ方式で、もりやま未来ミーティングを実施したことがあるが、他のグループの話が聞こえてこないで、全体的な雰囲気はわかりにくいという意見であった。</p>
佐子委員	<p>わがまちミーティングについて、まるごと活性化プロジェクトとは何か。また、令和 4 年度で 8 回目を迎えたとのことだが、守山学区だけで実施されているのか。</p>

事務局	<p>まると活性化プロジェクトとは、市内にある7つの学区が自分たちのまちにある魅力・財産を活かして賑わいを創出することを目的とした事業で現在は2期目。ホテルや祭りなどを特色として打ち出す学区があるなかで、守山学区ではこのような話し合いをもとにしたプロジェクトに取り組んでいただいたところである。</p>
田中委員	<p>当時、私は守山会館の館長を務めていた。わがまちミーティングは自治会魅力向上プロジェクトが担当。守山学区は特に新たな住民が転入される学区であるため、もともとの住民と新住民とで一緒にまちづくりを進めるためには話し合いの場が必要であるとの考えで始まっている。</p> <p>行政への要望を出す場ではなく、自分たちに何ができるのかを話し合ってもらおう場として開催していた。その場で出た意見については、守山学区で発行する自治会ハンドブックに掲載して、自治会長会での配布やホームページへの掲載をしている。</p>
金崎委員	<p>いろいろな事業を実施されていることはわかったが、どのように市民を集めているのか。</p>
事務局	<p>市民懇談会ともりやま未来ミーティングについては、住民基本台帳から無作為に抽出を行い、案内文を送付させていただいている。市民ワークショップは広報もりやまでの募集や当該事業の関係者などへの声掛けにより、参加者を募っている。</p>
只友委員長	<p>かつては、ポスター掲示などで周知を図っていた。無作為抽出の導入によって案内文が届いた人が参加してみようかなと思ってもらえると、もっと市民が集まりやすくなる。スイーツがもらえるから来たという理由でもよいと思う。</p>
清水委員	<p>私は、市民公募委員として参加させていただいている。結婚して滋賀県に移り住むことが決まってから、県内の各市町を調べつくして、守山が子育てのしやすいまちであることを知り移住を決めた。現在は、びわこ豊穰の郷に所属し、先日は東京まで行き、滋賀県代表として取組を報告してきたところである。</p> <p>いろいろな苦勞をしながら事業を実施されていると感じるが、広報が不十分で、特に共働きの若い世代に届いていない。公募委員の選考時の論文試験で、市民と市が会う場所づくり、情報共有ができる場所づくりについて提案させていただいた。市社協からも声が掛かり、お母さんと子育てのママフォーラムの実行委員としても活動しているが、場所づくりについて提案したところ賛同を得て、今年度開催することとなった。得られた効果については、皆さんにお伝えできたらと思う。</p>

	<p>私が市民活動に目覚めたきっかけは、びわこ豊穰の郷とファシリテーター養成講座である。養成講座では、新旧住民がペアになってファシリテーションを学んだが、旧住民と移住者がつながるきっかけを作ってほしいとの意見をたくさん聞いて、そのような場所づくりが求められていることを感じた。子育て世代の方々が市に対して、もっと意見を言える場があればいいなと思う。</p> <p>市民懇談会等の参加者のアンケートは、どこで見ることができるのか。また、各事業はどのような手段で広報しているのかについて聞きたい。</p>
事務局	<p>アンケート結果や開催概要については、市のホームページに掲載させていただいている。また、広報手段については、広報もりやまや市ホームページのほか、公共施設へのチラシ設置、登録団体やさんさんまちサポセミナーなどに参加いただいた方への個別通知などを実施している。</p>
只友委員長	<p>過去に一度取り上げてもらったことがあるが、BBCの「守山ニュース」に定期的に取り上げてもらえるとよい。守山市は市民参画の話し合いをしているということ、市民の話し合いを市の政策形成に役立てる仕組みがあるということ伝えることが大事である。</p>
<p><u>議事(2)令和5年度市民参加と協働のまちづくり推進にかかる取組方針について</u></p>	
事務局	<p>～資料を用いて議事(2)について説明～</p>
中井委員	<p>「豊かな市民活動のまち応援事業」の申請が始まっていたことを知らなかった。昨年度も申請を検討していたが、申請期間がわからなかった。どのように広報していたのか。</p>
事務局	<p>企画政策課から広報もりやまに記事が掲載されていたかと思う。</p>
中井委員	<p>以前、まちづくり会社である「みらいもりやま21」から委託を受けて、子育て世代を対象にしたミーティングを開催したことがある。ハーフバースデーパーティーや転入者ウェルカムパーティーのようなものを開催したが、テーマによって、関係する団体を巻き込んでもらったらいと思う。</p>
金崎委員	<p>さんさんまちサポセミナーの「コミュニティ通貨ビワコ」について、コミュニティ通貨はどこでも使えるのか。</p>

事務局	<p>滋賀県が力を入れて普及に努めている事業で、昨年度は、長浜市、近江八幡市および日野町をモデル地域としておられた。今年度は、守山市も含めて新たに3地域をモデル地域として啓発していくと聞いているので、今後、使えるお店も増えていくのではないかと。</p>
佐子委員	<p>スポットとして登録されているお店で使える。コインを差し上げますというところはあるが、集めたコインが使えるお店があまりないことが課題となっている。関わってくれる人を増やすためのツールとして考えていただければ。</p>
石田委員	<p>市民懇談会ともりやま未来ミーティングについて、市民懇談会は回数も含めて一定、具体的に記載されているが、もりやま未来ミーティングについては“1回以上”という表現に留まっている。昨年度の取組と比較すると消極的ではないか。若い層に守山市を知ってもらう意味でも積極的に取り組んでほしい。</p>
事務局	<p>昨年度も上半期はほとんど案件がなかったが、下半期に一気に開催の要望が重なった。市民懇談会、もりやま未来ミーティングともに、案件があって開催できるものであるが、1件でも多く開催できるよう検討していきたい。</p>
田中委員	<p>中間支援組織のイメージが浮かばない。将来的に市民交流センターを拠点として、市民活動団体のサポートを行っていくという位置づけか。各学区にはまちづくりをしている団体があり、地区会館ごとにコーディネーターも配置されている。中間支援組織と各地区会館の位置づけはどうか。</p> <p>森中市政となり、地区会館のあり方を見直すという話も聞くが、そのあたりは今後どうなっていくのか。</p>
事務局	<p>中間支援組織とは、市民提案型まちづくり支援事業に申請されるような社会の課題解決を目的に、市内で活動しておられる団体の活動をサポートしていく組織をイメージしている。その拠点を市民交流センターにしたい。一方で地区会館は、自治会の地域での活動を支援する位置づけで存在している。</p> <p>市民交流センターでも趣味のサークルが活動しておられるが、その域を一步出た公益的な活動をしたいと考えられたときには、もちろんサポートさせていただく。</p>
宇野委員	<p>今は中間支援組織を担うような団体がないということか。</p>

事務局	<p>かつては、NPO団体が交流センターの施設を管理しながら相談業務も行っていましたが、諸般の事情により指定管理を受けていただけなくなったことから、市直営で運営しているところである。このまま行政が運営していくと人事異動等で、相談者との関係性が保たれない、繋がっていないという課題も危惧するので、民間の力をお借りして中間支援事業を進めるべく、中間支援あり方研究会で議論いただいている。</p>
只友委員長	<p>地域にある団体を育て、すそ野を広げていくことも必要ではないか。</p>
事務局	<p>新たな担い手となる中間支援組織において、地区会館を拠点に活動している団体をサポートしないというわけではない。もちろん相談があれば、助成金の案内や他団体の紹介などもしていく。そのために必要な体制や人材について、研究会で議論いただいている段階であるが、早急に中間支援組織を立ち上げ、市内の団体をサポートできる体制づくりに取り組んでいきたい。</p> <p>また、田中委員からお話があった地区会館の見直しについては、職員体制の話である。この夏には新庁舎も供用開始となることから、来年度から市の組織体制を見直していこうというなかで、当然、地区会館も市の組織の一部であることから見直しの対象となっているということである。</p>
只友委員長	<p>現実問題として、生涯学習グループが公益的な活動へ転じるためのノウハウを生涯学習関連部署は受け持っていない。それらの団体がどうしたら公益的な側面を持ち得るのかについて、市内の市民団体活動拠点と情報共有しあえば、何か生まれてくるのではないか。</p>
事務局	<p>社会福祉協議会も中間支援組織機能を担っておられる。地区会館も含めて情報共有し合うことで、市内の市民活動の底上げができればと考えている。</p>
石田委員	<p>守山市内で中間支援組織を必要としている団体やニーズはどの程度あり、いつ頃を目途に組織が立ち上げられるのか。</p>
事務局	<p>市内で実際に市民活動団体として活動されている方も研究会の委員として参画していただいているが、“相談したいときにどこに行けばいいのかわからない”といったご意見をいただいた。市民交流センターに登録いただいている団体は、サークル活動も含めて170団体以上ある。我々の耳には届かないだけで、その中には相談する場所を求めておられる団体があるものと考えている。今年度の相談件数は、現時点で30件程度ある。</p>

石田委員	それだけのニーズがあるのであれば、なるべく早く、しっかりとした体制の組織を作ってほしいと思う。
金崎委員	地区会館との線引きをしないで柔軟な対応をすべき。相談者が振り回されることがあってはならない。
只友委員長	線引きの問題もそうだが、豊かな市民活動のまちを創っていくという目標の共有が必要である。
事務局	今年度立ち上げた中間支援組織あり方研究会は、秋にかけて5回開催予定である。ご指摘いただいたことは、研究会の中でしっかりと議論していきたい。ただし、組織の運営は核となる人による部分も大きいので、各委員のネットワークも活用しつつ発掘・育成に努めていきたい。
金山委員	まちサポセミナーなど、SNS（Instagram）を有効に活用して周知してほしい。
事務局	SNSの活用は、若年層に有効な周知方法であると思うので、情報発信に努めていきたい。
只友委員長	今年度の取組方針については、これでよいと思う。 令和6年度に向けての話になるが、提言から10年経過した提言書の見直しを検討してみてもどうか。新委員も委嘱され、新体制となった中で、守山市の市民協働をより進めていくためには、こんなことが必要であるといった点検を2年の任期のなかでやりましょう。ほかにご意見はあるか。
佐子委員	表紙もきれいだし、補助金等の情報も掲載されているが、広報紙が市民活動をしている方々に届いていないのではないかと。配布方法は全戸配布なのか。
事務局	主に新聞折込みおよび各公共施設、コンビニ等への設置である。
佐子委員	市民の皆さんが見たくなるような広報紙について、もりやま未来ミーティングで話し合ってもよいのではないかと。クロスワードの掲載や市民が編集者として参画するなど。
只友委員長	広報紙を市民の手元に確実に届けることが難しくなっている。新聞折込みで配布しているとのことだが、若い世代を中心に新聞の購読率は下がってきている。

石田委員	市民から広報紙が届いていないという苦情はないのか。
事務局	郵送料は必要となるが、希望者には郵送もしている。先述のとおり、市内各施設に設置しているのでお近くの施設からご自由にお持ち帰りいただくこともできる。また、ホームページにもアップロードしているので、データで閲覧いただいている方も増えてきている。
遠藤副委員長	<p>広報紙については、ホームページでの公開や紙面の設置など、媒体はたくさんある。情報が欲しい人は自ら取りに行くが、そもそも求めている人もとても増えてきているのが実態。</p> <p>大津市では自治会の組長が各戸に配布してくれているほか、LINEでも届く。</p>
清水委員	立入小学校区では、LINEでの情報発信をしている。それでもわからない人は、ご近所さんに聞きに行くので、地域間の交流につながる好事例が生まれている。
事務局	<p>本日は、長時間、ご議論いただきありがとうございました。只友委員長のお話の中でもあった提言書については、市のホームページにも掲載させていただいているのでご覧いただければと思う。</p> <p>また、この推進会議は、市の外部委員会という位置づけになっているため、本日の議事録や資料についても、ホームページで公開させていただくのであらかじめご了承願いたい。</p> <p>(了)</p>